

## お知らせ

平成 29 年 12 月 19 日

■同時発表先：島根県政記者会、出雲市政記者クラブ、米子市政記者クラブ、松江市政記者クラブ、出雲ケーブルビジョン

# 雲南在住の『げんきくん』たち“コウノトリ”を キーワードに 地域の未来について語り合います。

＝ 斐伊川水系生態系ネットワーク協議会「雲南圏域ワーキング」を初開催＝

斐伊川水系は、ラムサール条約登録湿地の宍道湖・中海に代表される、豊かな自然環境を有しており、冬の渡り鳥をはじめとして、四季折々に多くの鳥たちが生息する地域です。

この、豊かな自然環境を『守り』『育て』『未来へ繋ぐ』ことにより、地域の隠れた魅力を再発見し地域振興が図られることを期待し、平成 27 年に『斐伊川水系生態系ネットワーク協議会\*1』を設立しました。

この協議会では、国内に生息する希少な大型水鳥類 5 種（①ハクチョウ類②ガン類③ツル類④コウノトリ⑤トキ）を「シンボル」として、これら 5 種全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ国内唯一の地域であることを活かし、さまざまな活動を進めています。

この度、雲南市で、国の特別天然記念物に指定されている「コウノトリ」の営巣・繁殖活動などが確認されたことをきっかけに、斐伊川水系生態系ネットワーク協議会の活動組織の一つとして、雲南圏域\*2において『雲南圏域ワーキンググループ』を設立し、コウノトリを中心とした大型水鳥類が“安心して暮らせる環境づくり”と、それを活かした“地域活性化”について、さまざまな視点で語り合います。

### 【開催概要】

- ◆日 時 : 平成 29 年 12 月 26 日 (火) 14:00～16:00
- ◆会 場 : 雲南市役所 301 会議室
- ◆内 容 : 別紙 1 「議事次第 (案)」参照

注) 会場の座席数には限りがございます。満席の場合には入室をお断りする場合がございますので、予めご了承下さい。

注) 会場での録音・撮影はご遠慮下さい。開会までの前撮りは可能です。

※ 1 正式名称：斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

※ 2 雲南圏域：雲南市及び出雲市、奥出雲町、飯南町を対象とした地域

< 問い合わせ先 >

■国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

副所長 (技)

にしお まさひろ  
西尾 正博

【担当】計画課長

こたに てつや  
小谷 哲也

0853-20-1761 (直通)

第1回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる  
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

地域づくり部会 雲南圏域ワーキング

議 事 次 第 (案)

日 時：平成 29 年 12 月 26 日 (火)

14:00～16:00

会 場：雲南市役所 301 会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議事

- (1) 雲南圏域ワーキングの設立経緯について
- (2) ワーキング規約について
- (3) 生態系ネットワークの取り組み概要について
- (4) 大型水鳥類の飛来状況について
- (5) 地域からの活動報告
  - 1) 春殖地区振興協議会
  - 2) 雲南市立西小学校
- (6) 今後の取り組みについて

4. その他

5. 閉会

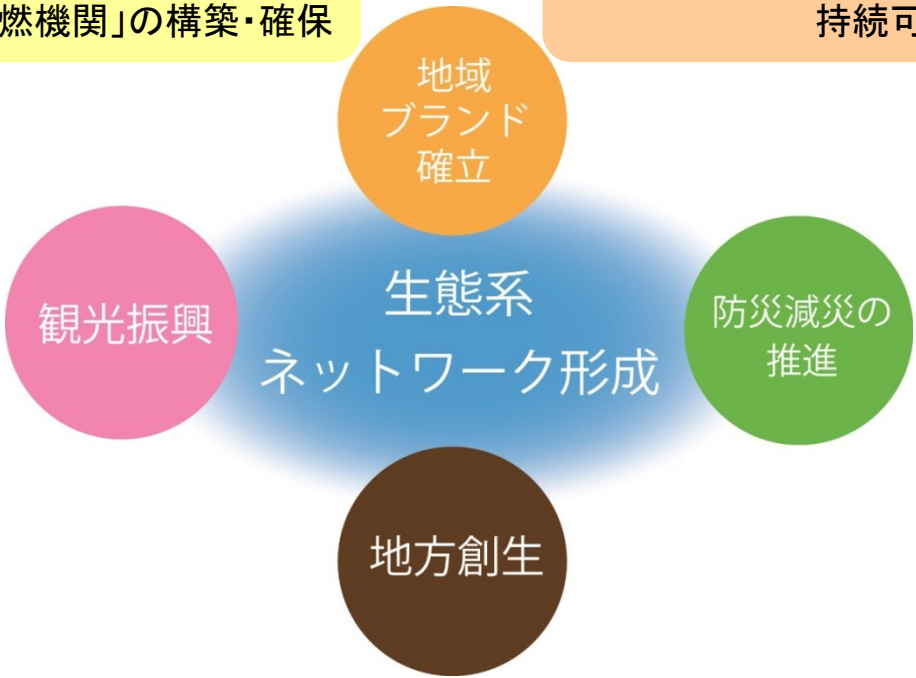
○斐伊川水系は、宍道湖及び中海のラムサール条約登録湿地に象徴される、多くの大型水鳥類が集まる国際的評価の得られた豊かな水辺環境を有している。

○わが国の陸水域に生息する希少な大型水鳥類は、①ハクチョウ類 ②ガン類 ③ツル類 ④コウノトリ ⑤トキの5つに大別されるが、これら全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ地域は、斐伊川水系が国内唯一である。

○これら大型水鳥類を指標とした、水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指している。

人口減少しながらも、  
大都市圏との対流をおこすための  
「内燃機関」の構築・確保

おとずれてみたい、  
住んでみたい、  
持続可能なまちづくり



過去に失われた自然環境の保全・再生と、その持続可能な利用

自然環境を活用した土地利用・社会資本整備(グリーンインフラ)の推進



斐伊川に飛来したハクチョウ、ガン  
佐藤仁志(公財)日本野鳥の会理事長



斐伊川に飛来したハクチョウ、ガン  
佐藤仁志(公財)日本野鳥の会理事長

# 5つの大型水鳥類が生息できる日本で唯一の地域「斐伊川水系」

日本に生息する希少な大型の水鳥類は、主に5つにわけられます。

- ① ハクチョウ類
- ② ガン類
- ③ ツル類
- ④ コウノトリ
- ⑤ トキ

## 斐伊川水系 <ひいかわすいけい> には・・・

- ① ハクチョウ類 ② ガン類 ③ ツル類 …毎年冬に飛来します。
- ④ コウノトリ …飛来もたびたび目撃されています。
- ⑤ トキ …かつて生息していました。



斐伊川水系には日本で唯一、これら5つの大型水鳥類が安定的に生息するポテンシャルがあります。これらの大型水鳥類がくらするように、環境づくりを進めていきます。

国際的に重要な湿地である宍道湖・中海を中核として、大型水鳥類を指標とした自然環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指します

## 大型鳥類を指標とするメリット

### 1 自然と調和した多様な環境が一体的に存在することの象徴

大型水鳥類の多くは、まとまった良好な水辺を広範囲に移動して生息・繁殖・越冬する習性をもつことから、行政界の枠を越えた広域レベルの水系ネットワークの指標として適した存在です。



### 2 色々な生きものがくらす環境の象徴

大型のガン類やハクチョウ類、ツル類が生息できる河川・湖沼やまとまりのある湿田や湿地は、小型の水鳥類をはじめ多くの生きものがくらすにける環境条件を有しています。



### 3 アピール性が高く、広く受け入れやすい

ハクチョウ類やコウノトリなどの白い鳥、ガン類など群れで行動する鳥は目にとまりやすく、取組の効果をアピールするのに適しています。

